

ごあいさつ



協同の力で
笑顔を咲かせ、
幸せを実らせます

組合員の皆様へ

酷暑の候、組合員の皆様には益々ご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。総代会において令和7年度の協同の成果の報告と令和8年度の事業計画などについてお諮りし、ご承認いただきました。

政府は改正食料・農業・農村基本法に基づき、令和7年から5年間を農業構造転換集中対策期間と位置づけ、食料安全保障強化のため農地集約化、スマート技術導入、共同利用施設合理化を重点的に整備することとしており、日本農業は新たな転換期を迎えています。

このような情勢のなか令和の米騒動から一転、大幅なコメ余剰となり米価の下落が懸念されます。持続可能な農業経営実現のため、特別出荷奨励金などの施策により集荷に努めるとともに、成長と効率の両面から持続可能な営農経済事業の構築を進めてまいります。

金融共済分野では、令和8年4月より5支店を貯金特化型店舗に移行させていただきました。特化型店舗では昼休憩1時間をとる代わりに営業時間を16時までとしています。今後空きスペースを活用して組合員の拠り所となれるよう新たな取り組みを始めます。一方、機能集約店舗ならびにJAトータルサポートセンター（明石・加古川）では職員を集約配置することで、より専門的な相談に対応できる体制を充実していきます。

令和7年度はバブル経済期以来の金利上昇が続く中、超長期債券を売却し22億5千万円の売却損を計上しました。これまで債券は保有し続ける方針でしたが、急速な金利上昇の動きに対応して方針を転換し、低利回りの超長期債を売却するという苦渋の経営判断をいたしました。この処理により赤字決算となり、今年度は利用高配当を実施することができず、また、信用事業基盤強化積立金を取り崩して当期末処分剰余金を9億1千万円確保しました。誠に申し訳ございません。このたびの売却処理は、2期連続の減損リスクを回避し将来のJA経営の安定に資するための一時的処理であり、令和8年度は運用収益を改善させ黒字転換を目指します。

（株）加古川産業会館、（株）JAオートサービス、（株）ふぁーみんサポート東はりまにおいては、組合員の皆様の温かいご支援・ご協力により好決算を結ぶことができました。また、社会福祉法人稲穂会も徐々に統合効果が現れつつあります。

本年度より「第10次中期経営計画」が始まります。本計画では、私たちの存在意義を示す新たなパーパス「協同の力で笑顔を咲かせ、幸せを実らせます」を掲げ、組合員・利用者本位の事業運営とコンプライアンスを重視した経営を推進してまいります。

組合員におかれましては、今後とも倍旧のご厚情を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

結びに組合員皆様のご健勝、ご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

令和8年7月吉日

兵庫南農業協同組合
代表理事組合長 野村 隆幸